



# Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x の リリースノート

---

初版：2020年8月27日

最終更新日：2020年11月18日

このドキュメントでは、Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x の新機能、システム要件、ライセンス情報、および警告について説明します。このドキュメントは、[不具合 \(-6 ページ\)](#) の一覧にあるドキュメントと併せて使用します。

## 目次

- [概要 \(-1 ページ\)](#)
- [システム要件 \(-2 ページ\)](#)
- [ライセンス情報 \(-4 ページ\)](#)
- [新機能と拡張機能 \(-4 ページ\)](#)
- [新規および変更された CLI コマンド \(-5 ページ\)](#)
- [制限事項と制約事項 \(-5 ページ\)](#)
- [不具合 \(-6 ページ\)](#)
- [Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x への移行 \(-7 ページ\)](#)
- [関連資料 \(-10 ページ\)](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート \(-11 ページ\)](#)

## 概要

Cisco Unified SIP Proxy は、集中的ルーティングと SIP 信号正規化を行う、高可用性な Session Initiation Protocol (SIP) サーバです。呼制御ドメイン間の要求を転送することにより、Cisco Unified SIP Proxy は企業内およびサービス プロバイダー ネットワーク内のルーティング



セッションの手段を提供します。Cisco Unified SIP Proxy SIP トランク集約、名前解決、ルーティング、ロード バランシング、スケーラビリティおよび高可用性などの複数の機能を提供します。

Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x はオープン仮想アプライアンス (OVA) として提供され、VMware ESXi プラットフォーム上に仮想マシンとしてインストールできます。Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x をインストールするための仮想マシン要件の詳細については、「[Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x の仮想マシン要件 \(-2 ページ\)](#)」を参照してください。Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x は、SNMP 経由で CISCO-USP-MIB をサポートします。

## システム要件

- [Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x の仮想マシン要件 \(-2 ページ\)](#)
- [ソフトウェア バージョンの判断 \(-3 ページ\)](#)
- [Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x のファイル パッケージ \(-3 ページ\)](#)

## Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x の仮想マシン要件

Cisco Unified SIP Proxy Release 10.2.x ソフトウェアは OVA としてパッケージ化されます。これには、VMware ESXi リリース 5.5 以上が必要です。[表 1](#) 仮想化された Cisco Unified SIP Proxy のハードウェア推奨事項に関する情報を提供します。

Cisco Unified SIP Proxy Release 10.2.1 ソフトウェア パッケージには、VMWare ESXi リリース 6.5 以上が必要です。



(注) [VMware](#) は、VMware ESXi バージョン 6.0 以降の一般サポートの終了を宣言しているため、vCUSP 10.2.x ユーザは ESXi バージョン 6.5 以降に移行することをお勧めします。

展開と構成の詳細については、次を参照してください。『[Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 設置ガイド](#)』

表 1 UCS プラットフォームの仮想マシンの要件

CPS	60 CPS	100 CPS	200 CPS	300 CPS	400 CPS
vCPU	1	2	4	4	4
RAM	4 GB	4 GB	4 GB	4 GB	4 GB
ディスク	80 GB	80 GB	80 GB	80 GB	80 GB



コメント CPU 速度が 2.99 GHz 以上

表 2 低速 Cisco UCS および Cisco UCS (E) プラットフォームの仮想マシンの要件

CPS	40 CPS	100 CPS	200 CPS	300 CPS	400 CPS
vCPU	1	2	4	6	6
RAM	4 GB	4 GB	4 GB	4 GB	4 GB
ディスク	80 GB	80 GB	80 GB	80 GB	80 GB



(注) CPU 速度は、2.99 GHz よりも遅くなっています。



注意

デフォルトログファイルサイズを変更すると、Cisco ユニファイ SIP プロキシのパフォーマンスに影響します。



注意

ハイパーバイザ上で実行されている仮想マシンによるハードウェアのサブスクリプションの超過はサポートされていません。

## ソフトウェアバージョンの判断

ソフトウェアのバージョンと使用されたライセンスを確認するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 次のコマンドを入力して、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアのバージョンを表示します。  
show software versions
- ステップ 2 次のコマンドを入力して、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアライセンスを表示します。  
show license smart summary

## Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x のファイルパッケージ

- [リリース 10.2 \(-3 ページ\)](#)
- [リリース 10.2.1 \(-3 ページ\)](#)

### リリース 10.2

次の Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x パッケージを使用できます。

- cusp-k9.vmw.10.2.0.ova

### リリース 10.2.1

次の Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.1 パッケージを使用できます。

- cusp-k9.vmw.10.2.1.ova

## ライセンス情報

- [Cisco Smart ソフトウェア ライセンス \(-4 ページ\)](#)
- [オープンソース ライセンス \(-4 ページ\)](#)

## Cisco Smart ソフトウェア ライセンス

Cisco Smart ソフトウェアライセンスは標準化されたライセンスプラットフォームであるため、Cisco ソフトウェアライセンスを簡単かつ迅速に導入および管理することができます。Cisco Smart Software Licensing は、柔軟で自動化された方法でネットワークを介して使用可能なソフトウェアライセンスのプールを確立します。また、ネットワーク内で購入および導入されたライセンスを表示することもできます。Cisco Smart ソフトウェアライセンスは、プロダクトアクティベーションキー (PAKs) の必要性を排除し、ライセンスのアクティベーションと登録時間を削減します。

GUI と CLI を使用したスマート ライセンスの詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 GUI アドミニストレーションガイド](#)』および『[Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 CLI 構成ガイド](#)』を参照してください。

## オープンソース ライセンス

Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x 用に作成されたソフトウェアのコンポーネントの一部は、オープンソース ライセンスまたは商用ライセンスに従って提供されています。これらのコンポーネントおよび関連する著作権に関する記述は、次の場所にあります。

<https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/open-source-documentation-responsive.html>

## 新機能と拡張機能

- [リリース 10.2 \(-5 ページ\)](#)

## リリース 10.2

Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 では、次の機能と拡張機能が導入されています。

- **パッチ アップグレード** : Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x で始まる Cisco Unified SIP Proxy の既存のメジャー リリースバージョンにパッチ ファイルをインストールできます。これにより、既存の仮想マシンを変更することなく、同じメジャー リリースバージョン内で新しいパッチ バージョンの Cisco Unified SIP Proxy にアップグレードすることができます。たとえば、Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x から Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2v1 または Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2v1 から Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2v2 にアップグレードできます。

パッチのアップグレードの詳細については、次を参照してください。『[Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 設置ガイド](#)』 CLI を使用したパッチのインストールの詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 の CLI 構成ガイド](#)』を参照してください。GUI を使用したパッチのインストールの詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 の GUI アドミニストレーションガイド](#)』を参照してください。

- 最小パスワード長とパスワードポリシーの更新：パスワードは 8～64 文字以上の英数字を使用する必要があります。ただし、パスワードの最大長には制限はありません。管理者は、パスワード長が最小長よりも長いユーザをプロビジョニングする権限を持っています。たとえば、ユーザは長さが 65 文字の英数字のパスワードを使用できます。
- SFTP ファイル転送：Cisco Unified SIP Proxy は、デバイスの構成やテンプレートを外部ネットワークとの間で転送するために Secure File Transfer Protocol (SFTP) を使用しています。CUSP サーバと外部サーバ間のパッチアップグレード、バックアップと復元、システム設定ファイルおよびログのアップロードおよびコピーなどの機能は、セキュアな FTP 経由でのみ実行されます。FTP はリリース 10.2.x では廃止されています。

## 新規および変更された CLI コマンド

### Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 の新規および変更された CLI コマンド

次の新しいコマンドは、Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 で導入されました。

- ソフトウェア ダウンロード URL <url> ユーザ名 <username> パスワード <password>
- ソフトウェア アップグレード

これらのコマンドの詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 の CLI コマンドリファレンス](#)』の「Cisco Unified SIP Proxy のモジュール コマンド」セクションを参照してください。

## 制限事項と制約事項

- [リリース 10.2 \(-5 ページ\)](#)

## リリース 10.2

Cisco Unified SIP Proxy Release 10.2 には、次の制限があります。

- デフォルトログファイルサイズを変更すると、Cisco ユニファイ SIP プロキシのパフォーマンスに影響します。
- Cisco UCS と Cisco UCS-E プラットフォームの両方で Cisco Unified SIP Proxy 仮想マシンの高可用性はサポートされていません。
- Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 は、Linux 環境における VMware ツールのインストールやサードパーティ製ツールのインストールをサポートしていません。
- ファストイーサネット 02 インターフェイスの設定はサポートされていません。
- Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.0 以降は、FTP ユーザに提示されるディレクトリ構造が変更されます。その結果、XML ファイルからのルートテーブルのインポートが動作しなくなります。そのため、vCUSP GUI のルート追加機能を使用することをお勧めします。

# 不具合

警告では、Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x での予期しない動作について説明します。Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x に関する警告を確認するには、次のバグ検索ツールを使用します。<https://tools.cisco.com/bugsearch/search>

- [リリース 10.2 で解決済みの問題 \(-6 ページ\)](#)
- [リリース 10.2.1 で解決済みの問題 \(-7 ページ\)](#)

## リリース 10.2 で解決済みの問題

Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 では次の問題が解決されました。

警告	説明
CSCvt27743	Apache Tomcat Ghostcat 脆弱性に関する unified-sip-proxy の評価
CSCvr40548	BIND コンポーネントでの CIAM アラート
CSCvs28900	DNS Java で引き起こされたメモリ リークによってスーパー スレッドがクラッシュします
CSCvs48121	ユーザに FTP アクセスを割り当て、同じアクセスから削除した後、ユーザは CUSP に SSH で接続できません
CSCvs54756	タイムゾーン設定の GUI ページでの国の変更でタイムゾーンが更新されません
CSCvs79888	CUSP 10.0 の CUSP から LITE モードへの変更は利用できません
CSCvs88460	RADIUS 経由で CUSP 10.1 ログインが動作しません
CSCvt45242	CUSP 10.0 および 10.1 SIP ログは、NTP サーバから同期されたローカル タイムゾーンの代わりに GMT タイムゾーンを表示します
CSCvt76985	10.x バージョンのトレース ログファイル ヘッダーがありません
CSCvu40336	バインドされている複数の脆弱性
CSCvu47993	vCUSP 10.1 : CLI が ESXi コンソールからアクセスされるまで、ping/SSH/GUI の再ロード後の動作を停止します
CSCvs65917	テーブルに 1 つのエントリしか存在しない場合、復元操作は動作しません
CSCvs77007	セットアップウィザードのドメイン名の設定が有効になりません
CSCvs78604	CUSP GUI インターフェイスからトレース ログファイルをクリアできません
CSCvs78774	CLI からトレースログをクリアするときにトレース トリガーを有効にします
CSCvi81740	vCUSP JConsole アクセス
CSCvq02490	vCUSP は、Backup and Restore と一緒にすべてのファイル転送で SFTP をサポートする必要があります
CSCvt53483	vCUSP 10.1 での kdump 構成の有効化

Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 では、次の問題が未解決となっています。

不具合	説明
CSCvu13653	OpenLDAP における複数の脆弱性
CSCvv03282	失敗したコール検索リストから 100 コールをクリア中に不良要求を取得
CSCvv23379	ゲスト OS と ESXi の互換性に CUSP 10.2 の古いバージョンが表示されている
CSCvv23410	CUSP オンライン ヘルプは、バックアップ パラメータを設定するための正しい手順で更新する必要がある

## リリース 10.2.1 で解決済みの問題

Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.1 では次の問題が解決されました。

不具合	説明
CSCvu13653	OpenLDAP における複数の脆弱性
CSCvv03282	失敗したコール検索リストから 100 コールをクリア中に不良要求を取得
CSCvv23379	ゲスト OS と ESXi の互換性に CUSP 10.2 の古いバージョンが表示されている
CSCvv23410	CUSP オンライン ヘルプは、バックアップ パラメータを設定するための正しい手順で更新する必要がある
CSCvv87871	CUSP 10.2 は、デフォルト以外（新規）のグループにメンバーとしてユーザを登録できません

## Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x への移行



ヒント

以前のリリースのデータと構成は、バックアップファイルへの絶対パスを使用して SFTP サーバから復元する必要があります。バックアップサーバの設定方法の詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 の CLI 構成ガイド](#)』の「Backup and Restore Data」セクションを参照してください。

## Cisco Unified SIP Proxy 8.x からの移行

既存の Cisco Unified SIP Proxy 8.x リリースから Cisco Unified SIP Proxy Release 10.2.x に移行できます。ただし、移行中の制限事項は次のとおりです。

- Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x を SRE モジュールにインストールできません。Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x をインストールするには、VMWare ESXi プラットフォームが必要です。
- 既存の Cisco Unified SIP Proxy 8.x SWIFT ライセンスは、Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x に移行できません。シスコパートナーまたはリセラーに現在のライセンス購入についてお問い合わせください。
- Cisco Unified Proxy 8.x リリースからのバックアップ設定ファイルは、Cisco SRE module が電源投入時にホストルータから RBCP プロトコルを通じて関連情報を取得するため、ネットワーク関連の構成が行われません。Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x では、RBCP 通

信をサポートしていません。そのため、Cisco Unified SIP Proxy 8.5.x リリースからのバックアップ設定を Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x で復元した場合は、再ロード中に IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイの詳細を手動で入力および設定する必要があります。

- a. 10.2.x で 8.X の構成を復元する間に、仮想 Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x の VM にコンソールアクセスできます。
- b. 復元が完了したら、画面の手順に従ってモジュールを再ロードします。
- c. 再起動が完了したらすぐに、ユーザ名とパスワードでコンソールにアクセスします。
- d. 次のように、IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイを設定します。

```

cusp#configure terminal
構成コマンドを 1 行に 1 つずつ入力します。CNTL/Z で終了します。
cusp(config)#interface FastEthernet 0
cusp(config-interface)#ip address 10.65.125.187 255.255.255.128
cusp(config-interface)#end interface
cusp(config)#ip default-gateway 10.65.125.129
SYSTEM ONLINE
cusp(config)#exit
cusp#wr mem

```

- e. Cisco Unified SIP Proxy がオンラインになった後は、ユーザをパスワードリセットでグループに再度関連付けし、SSH を使用してリモートアクセスをテストします。

```

cusp#configure terminal
cusp#username cisco group Administrators
cusp#username cisco password cisco
cusp#wr mem

```

- Cisco Unified SIP Proxy 8.x リリースの設定には、複数のサブインターフェイスが含まれています。Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x のサブインターフェイスのフォーマットは、Cisco Unified SIP Proxy Release 8.x のサブインターフェイス形式とは異なります。これらのインターフェイスは、再ロード完了後に手動で設定する必要があります。
- 仮想 Cisco Unified SIP Proxy の IP アドレスが必要な場合、リッスン ポイントは復元されません。したがって、Cisco Unified SIP Proxy 8.x リリースからバックアップを復元した後は、手動でリッスン ポイントを設定する必要があります。
- 仮想 Cisco Unified SIP プロキシの IP アドレスが必要な場合、SIP Ping の構成は復元されません。したがって、Cisco Unified SIP Proxy 8.x リリースからのバックアップを復元した後は、Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x リリースで SIP Ping の構成を手動で設定する必要があります。

Cisco Unified SIP Proxy の既存のリリースから Cisco Unified SIP Proxy Release 10.2.x に移行する手順は次のとおりです。

1. 既存の Cisco Unified SIP Proxy 8.x 設定のバックアップを取得します。詳細については、『Cisco Unified SIP Proxy Cli リリース 8.5 の CLI 構成ガイド』または『Cisco Unified SIP Proxy リリース 8.5 の GUI アドミニストレーションガイド』を参照してください。
2. 仮想マシンに Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 OVA を展開します。詳細については、『Cisco Unified SIP Proxy 10.2 設置ガイド』を参照してください。
3. スマート ライセンスを設定します。詳細については、『Cisco Unified Sip proxy リリース 10.2 GUI アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified Sip Proxy リリース 10.2 用 CLI 構成ガイド』を参照してください。



4. Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x で Cisco Unified SIP Proxy 8.x の構成バックアップを復元します。詳細については、次を参照してください。『Cisco Unified Sip proxy リリース 10.2 CLI 構成ガイド』および『Cisco Unified Sip Proxy リリース 10.2 用 GUI アドミニストレーションガイド』



(注) 設定の復元前にスマートライセンスが設定されている場合、スマートライセンスの詳細がリセットされます。スマートライセンスを有効にする前に、設定を復元することを推奨します。



(注) Cisco Unified SIP Proxy リリース 8.x から Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x に移行する際に、仮想マシンにサブインターフェイスまたは VLAN が定義されていない場合は、ESXi スイッチ側またはネットワーク側で VLAN 0 タグをパケットから削除します。使用されていない場合は、VLAN 0 タグを持つパケットは削除されます。

## Cisco Unified SIP Proxy 9.x からの移行

Cisco Unified SIP Proxy の既存の 9.x リリースから Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x にアップグレードできます。Cisco Unified SIP Proxy の既存のリリースから Cisco Unified SIP Proxy Release 10.2.x に移行する手順は次のとおりです。

1. 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。詳細については、『Cisco Unified SIP Proxy リリース 9.x の CLI 構成ガイド』の「Cisco Unified SIP プロキシシステムの保守」の章を参照してください。
2. スマート ライセンシングを使用している場合は、CSSM から CUSP 9.x の登録を解除します。
3. 既存の Cisco Unified SIP Proxy 9.x 設定のバックアップを取得します。詳細については、『Cisco Unified Sip proxy リリース 9.x CLI 構成ガイド』および『Cisco Unified Sip Proxy リリース 9.x 用 GUI アドミニストレーションガイド』を参照してください。
4. 仮想マシンに Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 OVA を展開します。詳細については、『Cisco Unified SIP Proxy 10.2 設置ガイド』を参照してください。
5. スマート ライセンスを設定します。詳細については、『Cisco Unified Sip proxy リリース 10.2 GUI アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified Sip Proxy リリース 10.2 用 CLI 構成ガイド』を参照してください。
6. Cisco Unified SIP Proxy 10.2 で Cisco Unified SIP Proxy 9.x の構成バックアップを復元します。詳細については、次を参照してください。『Cisco Unified Sip proxy リリース 10.2 CLI 構成ガイド』および『Cisco Unified Sip Proxy リリース 10.2 用 GUI アドミニストレーションガイド』
7. CSSM に再登録します。

## Cisco Unified SIP Proxy 10.x からの移行

Cisco Unified SIP Proxy の既存の 10.x リリースから Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x にアップグレードできます。Cisco Unified SIP Proxy の既存のリリースから Cisco Unified SIP Proxy Release 10.2.x に移行する手順は次のとおりです。

1. 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。詳細については、『Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.x の CLI 構成ガイド』の「Cisco Unified SIP プロキシシステムの保守」の章を参照してください。

2. スマート ライセンシングを使用している場合は、CSSM から CUSP 10.x の登録を解除します。
3. 既存の Cisco Unified SIP Proxy 10.x 構成のバックアップを作成します。詳細については、次を参照してください。『Cisco Unified Sip proxy リリース 10.x CLI 構成ガイド』および『Cisco Unified Sip Proxy リリース 10.x 用 GUI アドミネストレーションガイド』
4. 仮想マシンに Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2 OVA を展開します。詳細については、『Cisco Unified SIP Proxy 10.2 設置ガイド』を参照してください。
5. スマート ライセンスを設定します。詳細については、『Cisco Unified Sip proxy リリース 10.2 GUI アドミネストレーションガイド』および『Cisco Unified Sip Proxy リリース 10.2 用 CLI 構成ガイド』を参照してください。
6. Cisco Unified SIP Proxy 10.2.x で Cisco Unified SIP Proxy 10.x.x の構成バックアップを復元します。詳細については、次を参照してください。『Cisco Unified Sip proxy リリース 10.2 CLI 構成ガイド』および『Cisco Unified Sip Proxy リリース 10.2 用 GUI アドミネストレーションガイド』
7. CSSM に再登録します。

## 関連資料

表 1-1 では、Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x で使用できるドキュメントの一覧を示します。

表 1-1 関連資料

マニュアル	説明
Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x の設置ガイド	ライセンスを含むソフトウェアの Cisco Unified SIP Proxy インストール方法について説明します。リリース 1.x からリリース 10.2.x への移行に関する情報もあります。 <a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/ps10475_products_installation_guides_list.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/ps10475_products_installation_guides_list.html</a>
Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x の CLI 構成ガイド	CLI から実行されるタスクの管理やトラブルシューティングなどの管理者情報が含まれています。 <a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/ps10475_products_installation_and_configuration_guides_list.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/ps10475_products_installation_and_configuration_guides_list.html</a>
Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x CLI コマンドリファレンス	すべての Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x に固有の CLI コマンドの説明が記載されています。 <a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/ps10475_products_command_reference_list.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/ps10475_products_command_reference_list.html</a>

表 1-1 関連資料 (続き)

マニュアル	説明
Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x の GUI アドミニストレーション ガイド	GUI から実行されるタスクの管理やトラブルシューティングなどの管理者情報が含まれています。オンライン ヘルプが含まれています。 <a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products_installation_and_configuration_guides_list.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products_installation_and_configuration_guides_list.html</a>
Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.2.x の商用オープンソース情報	このプロジェクトで使用されているすべてのオープンソース ソフトウェアが記載されています。 <a href="https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/open-source-documentation-responsive.html">https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/open-source-documentation-responsive.html</a>

## マニュアルの入手方法およびテクニカルサポート

マニュアルの入手方法、テクニカルサポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。Cisco の新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。Cisco は現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

Cisco および Cisco ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧は、[www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks) でご確認いただけます。掲載されている第三者の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」などの用語はシスコと他社とのパートナーシップという関係の意味ではありません。(1721R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク図とその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Copyright © 2020, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

